

出前授業・模擬選挙	模擬議会・議員との交流
地方公共団体主体	他の機関(税務署)と連携
小学生等	中学生

若者議会・こども議会	座談会等
高校生	大学生・短大生・高専生

大学・若者グループ等との交流
特別支援学校生

【参考】 学校・民間団体が主体の取組
若者層 (10～20代)

## ⑩丹波市（兵庫県）（人口61,717人）※令和5年1月1日現在

# 丹波市☆ミライプロジェクト ～市内高校合同で議員と議論し政策提言～

### ■取組の概要

- 市内の3校（兵庫県立柏原高校・氷上高校・氷上西高校）の学生が集い、福知山公立大学の協力のもと、議員も交えて2か月間にわたって政策提案に向けた準備を行い、取りまとめた政策提案を議場で議員に向けて発表。



### 実施概要

実施年度	平成30年度から毎年実施（令和2年度は新型コロナのため中止）
対象者	兵庫県立柏原高校・氷上高校・氷上西高校の生徒
参加者数	高校生34名、大学生（ファシリテーター）24名、議員20名
事業規模（予算）	1万円程度（消耗品費等）

### ■実施の経緯

#### <取組を開始するに至った経緯>

- 議会の役割である「意思決定」機能を踏まえ、現状の把握と共にまちの将来を考える上で多様な意見を聞く機会を議会自ら設けなければならないと考え、未来を担う若者の声（意見）を聴く機会を設ける必要があったこと、また、全国的な課題である若者の主権者意識の醸成や政治への関心を高めるため、福知山公立大学の協力のもと取組を開始した。
- 議会に予算編成権がない中では、高校生の考える政策に対して責任のある回答ができないという問題意識から、高校生とのコミュニケーションを深められる意見交換を中心とした取組としている。

### ■実施の体制

#### <庁内の実施体制>

- 主担当1名が事務を担当、意見交換会や意見発表の際は全職員5名で対応。そのほか、議会運営委員長等議員も積極的に協力。

#### <外部との連携体制>

- 福知山公立大学地域経営学部の杉岡秀紀准教授を中心に、大学生ファシリテーター、地域連携目的で設置されている柏原高校の非常勤職員のコーディネーターが協力。

### ■取組の効果・成果

- 高校生が本会議場で議員に対し提案を行い、それに対して議会が回答を行うことで、高校生が政治への関心を高めることができている。高校生からは自分の意見を話すことの大切さや政治に関与することの大切さが伝わったと事後の感想を得ている。
- 関わった議員も高校生とのディスカッションや発表を通して刺激を受けている。



#### <これから取組を始める団体へのメッセージ>

若い人たちがこの取組をきっかけにして議員や市長、行政職を目指すようになると良いと思っています。主権者教育は選挙の啓発だけが目的ではなく、政治に関心を持ってもらうことこそが第一です。議会自らが積極的に働きかけていくことが大事だと考えています。

★より詳しい情報はこちらへ

【丹波市ミライプロジェクト】

<https://www.city.tamba.lg.jp/site/gikai/mirai-project2023.html>



## ■取組のステップとポイント

### ① 事前準備

#### 【実施3か月前】開催方法についての協議・高校との調整開始

- ・ 福知山公立大学杉岡准教授と、今年度の開催方法について協議を実施。
- ・ 柏原高校、氷上高校、氷上西高校に協力を依頼。

#### 【実施2か月前】開催内容に関する打合せ

- ・ 高校の担任教員、杉岡准教授、議員、コーディネーター、議会事務局で3回にわたり事業の打合せを行い、開催内容について検討、決定。

### 第1ステージ：キックオフ会議

#### 【当日の流れ】

- ①議会からテーマ（※）についての課題提起（5分）
  - ②高校生と市議会議員による意見交換（70分）
- ※令和5年度は「若者の政治への関心を高める」「社会（地域・市政・議会）における女性の活躍」の2つ
- ・ 意見交換は、高校生4～5名、議員2名、大学生ファシリテーター2名で1班とし、10グループで実施。



### ② 取組実施

#### 第2ステージ：政策提案に向けた準備（2か月）

- ・ キックオフ会議で議論したグループでオンラインチャットグループを作り、チャット上で相談しながら、政策提案を取りまとめ、発表のための資料作成を実施。
- ・ 大学生ファシリテーターが全体の進捗管理等を行い、議員からは適宜意見を出しながら当日に向けた準備を実施。

#### 第3ステージ：意見発表会

- ・ 市議会議事堂議場にて、1班10分（発表5分、質疑5分）で取りまとめた政策提案を議員に向けて発表。

#### 意見に対する議会对応の回答

- ・ 意見発表会で各班が発表した内容について、分野ごとに専門の常任委員会に割り振り、取扱いと返答内容について協議、回答を取りまとめ、議長名で公表。
- ・ 提案のうち市に伝達すべき内容について議長から市長へ提出。
- ・ 高校生に対して事後アンケートの提出を依頼。

### ③ 実施後

#### 【ポイント】

- ・ 過年度は対象高校は1校のみだったが、隔年開催となり生徒にとって取組に触れる機会が少ないため、3校合同での開催に実施方法を変更した。
- ・ 3校間の調整は、各学校に精通しているコーディネーターの協力を得ることでかなり効率的にできた。

#### 【ポイント】

- ・ テーマは、事前準備の各者打合せの際に、高校の授業内容、准教授の意見、議会の問題意識等をすり合わせて決定。
- ・ グループは高校横断で組成。
- ・ 議論しやすいよう、発表資料のひな型資料（提案の背景、実現可能性の根拠、想定される効果等）を事前に共有。



#### 【ポイント】

- ・ 発表当日はできるだけ全ての生徒に発表をしてもらうために、欠席者は事前録画等で意見発表を行った。

#### 【ポイント】

- ・ 提案への返答は、別々実施していた一般市民との対話時と同様の取扱いとし、①市長に伝達、②議員で調査、③議員で議論の3種の回答を軸に整理。